

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	民俗学						授業形態	講義			
科目コード	750010	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	ICT活 用	○
担当教員名	地村 光広										
授業概要	<p>小学校教諭経験、博物館等における行政ならびに専門的な経験、教頭・校長の管理職経験等で培ったことを生かして、将来教員を目指す学生諸君に、深い見識を身につけさせるために実践していく。</p> <p>民俗学は、衣食住・生産生業・交通運輸・交易・社会生活等の有形文化および年中行事・信仰儀礼・民俗芸能等の無形文化について伝承からその内容を明らかにするものである。なかでも民俗資料は、人びとの生活を知るうえで不可欠なものであり、生きぬいてきた人びとの生活を物語る貴重な文化財である。これらの資料から、人びとの生活の知恵や工夫、自然とのたくみなかかわりを探ることができる。</p>										
関連する科目	宮崎の自然と歴史（民俗学全般）、都城の民俗（民俗文化財・信仰儀礼・諸職・身近な食等）										
授業の進め方 と方法	<p>本授業は、講義形式で行う。授業形態としては、一斉指導を基本とするが、内容によってはグループによるディスカッションや発表を取り入れる。また、記録写真・動画、最新の情報を加味した民俗の視聴覚資料や民具等の具体物を用いたり、博物館の民俗展示解説を行ったりして履修生が主体的に学習することができるような内容の工夫をする。振り返りシートを使用し、履修生の理解度を確認しながら授業を進め、疑問点についてはフィードバックを行う。</p>										
授業計画 【第1回】	第1回 民俗学 民俗学の特性・対象分野等について学ぶ。										
授業計画 【第2回】	第2回 民俗文化財 民俗資料の定義・民俗文化財の分類（有形民俗文化財・無形民俗文化財）について学ぶ。										
授業計画 【第3回】	第3回 宮崎の民俗 宮崎県の地勢・照葉樹林文化・黒潮文化・歴史的背景等について学ぶ。										
授業計画 【第4回】	第4回 山・里・海の暮らし 山樵・農耕・漁労の特色について学ぶ。										
授業計画 【第5回】	第5回 いのりとまつり 年中行事・信仰儀礼・宮崎の神楽について学ぶ。										
授業計画 【第6回】	第6回 日向の山村生産用具① 山の暮らしに関する生産用具について学ぶ。										
授業計画 【第7回】	第7回 日向の山村生産用具② 里の暮らし・その他に関する生産用具について学ぶ。										
授業計画 【第8回】	第8回 川の民俗 上流・中流・下流の川漁について学ぶ。										
授業計画 【第9回】	第9回 運搬用具 人力運搬用具について分類・形状・使用方法等について学ぶ。										
授業計画 【第10回】	第10回 みやざぎの技 木・竹・草の民具の特性について学ぶ。										

授業計画【第11回】	第11回 身近な食と民俗 宮崎県内の正月の食・特色ある食の事例について学ぶ。
授業計画【第12回】	第12回 民俗資料の見方 民俗資料の形状・素材・製作方法について学ぶ。
授業計画【第13回】	第13回 民俗展示の解説 宮崎県総合博物館における民俗展示の内容について学ぶ。
授業計画【第14回】	第14回 宮崎の民家 民家の定義・民家をみる視点について学ぶ。
授業計画【第15回】	第15回 民俗調査の方法とまとめ 対象・時期・場所・方法等について具体的に学ぶ。
授業の到達目標	1 伝統・文化の意味を理解するとともに、先人たちの知恵や工夫・努力等に気づくことができる。 【知識・理解の獲得】 2 授業中の振り返りのなかで、自らにフィードバックすることができる。 【コミュニケーションスキルの育成】 3 保存・継承等を含め、これからの自分たちの生活にすすんで取り入れようとする事ができる。 【生涯学習力の育成】
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	【予習】 今回のテーマに着目して、関連資料等を参考にして理解しておく。(学修に係る標準時間は約2時間)
授業時間外学習【復習】	【復習】 授業で学修した内容について要点をまとめておく。(学修に係る標準時間は約2時間)
課題に対するフィードバック	時間ごとに、授業の振り返りを行い解説する。 定期試験終了後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 ① 授業の振り返り (50点) ② 最終試験 (50点)
テキスト	決められたものはなし。
参考書	必要に応じて図書や関連の資料を紹介する。
備考	授業後の「振り返り」を出席管理に使用する。